

## 実行計画点検状況公表のための年次公表資料作成に係る標準手順書

### 1. 実行計画点検状況公表のための年次公表資料（ひな形）の概要

実行計画点検状況公表のための年次公表資料（ひな形）は、地方公共団体実行計画（事務事業編）推進団体（以下「推進団体」という。）以外の第三者に対して、推進団体における温室効果ガスの排出量の推移を公表するだけでなく、推進団体がどのような措置を実施し、その措置が外部・内部環境のもとで、どのように温室効果ガスの排出量に影響したかを示すことで、第三者がより包括的に推進団体の取組に対する認識を深めることができるよう作成した汎用テンプレートです。

また、推進団体が当該年度までの活動を踏まえて、今後の措置や取組をどのように見直すかについても示すことで、推進団体の取組方針について、第三者にもより深い理解を得ることができるようにすることも意図しています。

本ひな形は、類型Ⅰ（大規模団体）、類型Ⅱ（小規模団体）、類型Ⅲ（一部事務組合及び広域連合）のそれぞれに対して共通のフォーマットを用意しています。その一方で、団体規模や事業内容によって、事業ごとの温室効果ガスの排出量の示し方が異なると考えられることから、当該情報公表のための図表は、類型ごとにサンプルを用意しました。

公表にあたっては、以下の全ての項目を記載することが望まれますが、各団体の実情に応じて、公表できない項目については適宜除外して活用ください。

### 2. 実行計画点検状況公表のための年次公表資料（ひな形）の活用方法

#### 2.1. 令和〇〇年度点検・評価結果の総括

本項では、以下の項目で記載する事項の概要を記載することで、当該年度の状況を包括的かつ簡潔に説明します。ひな形に記載されている「総括例」を参考に、排出量の推移、増減要因、今後の方針等について概要を記載ください。

#### 2.2. 「温室効果ガス総排出量」及び増減要因

##### （1）本市（町・村・団体）における令和〇〇年度の「温室効果ガス総排出量」

###### ① 温室効果ガス総排出量

- 本項は、全団体対象の記載項目です。
- 「温室効果ガス総排出量」及びガス種別排出量について、基準年度の排出量、当該年度の排出量、目標年度の目標とする排出量を記載します。
- また、当該年度の基準年度からの増減量及び削減量、目標年度の目標削減量を記載し、目標に対する達成状況が見える化します。
- エネルギー起源二酸化炭素については、内訳として燃料の使用、電気の使用、熱の使用等に細分化して公表いただくことも有用です。

###### ② 温室効果ガス総排出量の削減のための措置に関する主要な目標

- 本項は、類型Ⅰ（大規模団体）の活用を想定していますが、類型Ⅱ（小規模団体）及び類型Ⅲ（一部事務組合及び広域連合）におかれましても可能な限りの御対応をください。

- 本項目では、電力やガスの二酸化炭素排出係数の変動による影響を除いた温室効果ガス排出量を提示することが可能です。そうすることにより、自らの省エネルギーな取組の効果の提示や、温室効果の小さい電気やガスへの転換状況について提示することが可能になります。
- 電気の二酸化炭素排出係数（実排出係数）の平均値については、算出の根拠として、巻末資料として示した電気事業者ごとの排出係数推移と合わせて公表されることも考えられます。
- また、電気から、排出係数のより小さなエネルギーへの転換を措置として図られる場合を想定し、表中ではLPGを代替エネルギーとして例示しています。実際の代替エネルギーに読み替えて御活用ください。
- 主要な目標として、エネルギー消費量や炭素集約度に重点を置いて策定されている場合には、表2のとおり読み替えて利用されることも考えられます。
- これら指標に係る温室効果ガスの排出量の算定方法については、環境省総合環境政策局 環境計画課「地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル（算定手法編）（旧：温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン）」に詳しく記載されていますので御参照ください。

表-1 本市（町・村・組合）の温室効果ガス排出量概況

(単位：t-CO<sub>2</sub>)

温室効果ガス	2012年度		2017年度		2020年度	
	【基準年度】	【実績値】	基準年度との比較		【目標排出量】	【目標削減率】
			増減	削減率		
温室効果ガス総排出量※1	875,000	852,900	-22,100	-2.5%	801,250	-8.4%
エネルギー起源二酸化炭素※2	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
燃料の使用	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
電気の使用	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
熱の使用	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
非エネルギー起源二酸化炭素※3	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
メタン	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
一酸化二窒素	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
HFC	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
PFC	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
SF <sub>6</sub>	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
温室効果ガス総排出量の削減のための措置に関する主要な目標						
電気の二酸化炭素排出係数を2013年度の値に固定して計算した温室効果ガスの排出量 (単位：t-CO <sub>2</sub> ) ※4	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
電気の使用に伴う温室効果ガスの排出量 (実排出係数) (単位：t-CO <sub>2</sub> )	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%		
電気の二酸化炭素排出係数（実排出係数）の平均値 (単位：kg-CO <sub>2</sub> /kWh) ※5	〇.〇〇〇	〇.〇〇〇	〇.〇〇〇	〇〇%	-	-
ガスの二酸化炭素排出係数を2013年度の値に固定して計算した温室効果ガスの排出量 (単位：t-CO <sub>2</sub> ) ※6	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
ガスの使用に伴う温室効果ガス排出量 (実排出係数) (単位：t-CO <sub>2</sub> )	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%		
ガスの二酸化炭素排出係数（実排出係数）の平均値 (単位：kg-CO <sub>2</sub> /kg) ※7	〇.〇〇〇	〇.〇〇〇	〇.〇〇〇	〇〇%	-	-

1

2

※1：「温室効果ガス総排出量」とは、異なる種類の温室効果ガスの排出量を、それぞれが地球温暖化をもたらす強さの程度に応じて二酸化炭素の量に換算して合計した量です。「地球温暖化対策の推進に関する法律」（平成10年法律第117号）第2条第5項で定義されており、その算定方法は地球温暖化対策の推進に関する法律施行令（平成11年政令第143号）で定められています。

※2：エネルギー（燃料並びに電気及び熱）の使用に伴い排出される二酸化炭素の呼び方です。

※3：エネルギー起源二酸化炭素以外に排出される二酸化炭素です。ごみに含まれる廃プラスチック類の焼却に伴い排出されます。【廃プラスチック類の焼却という例示が適当かどうかは、当該地方公共団体の状況に応じて御記載ください】

※4：「電気の二酸化炭素排出係数を2013年度の値に固定して計算した温室効果ガスの排出量」とは、「温室効果ガス総排出量」の算定に用いたものと同じの活動量（燃料や電気の使用量など）を用いて、同様の算定方法で計算した排出量ですが、電気の使用に伴う二酸化炭素排出量の計算に限り電気の二酸化炭素排出係数を当該年度の値ではなく基準年度（2013年度）の値を用いて計算したものです。電気の二酸化炭素排出係数は、本市（例）が契約する小売電気事業者の選択によるほか、同一の小売電気事業者によっても年度ごとに値が大きく変動することがあります。そこで、自らの省エネルギー及びより低炭素なエネルギーへの転換などの効果を電気の二酸化炭素排出係数の変動を除いた形で評価するための目標として設定しています。なお、電気の使用に伴う二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出量の値は、「温室効果ガス総排出量」に含まれる値と同じです。

※5：「電気の二酸化炭素排出係数（実排出係数）の平均値」とは、本市（例）が契約している小売電気事業者が複数あることから、それぞれの二酸化炭素排出係数を本市（例）がそれぞれから供給を受けて使用した量で加重して平均した値です。この値が低減するほど、発電時に二酸化炭素を排出する量が少ない小売電気事業者と契約していることとなります。実排出係数とは、小売電気事業者の電源のうち火力発電所から排出される二酸化炭素の量に基づき特段の調整なく算出された排出係数であり、「温室効果ガス総排出量」の算定に用いられます。

※6：「ガスの二酸化炭素排出係数を2013年度の値に固定して計算した温室効果ガスの排出量」とは、「温室効果ガス総排出量」の算定に用いたものと同じの活動量（燃料や電気の使用量など）を用いて、同様の算定方法で計算した排出量ですが、ガスの使用に伴う二酸化炭素排出量の計算に限りガスの二酸化炭素排出係数を当該年度の値ではなく基準年度（2013年度）の値を用いて計算したものです。ガスの二酸化炭素排出係数は、液化石油ガス（LPG）、液化天然ガス、都市ガス等のガス種によって異なるため、自らの省エネルギー及びより低炭素なエネルギーへの転換などの効果をガスの二酸化炭素排出量の変動を除いた形で評価するための目標として設定しています。

※7：「ガスの二酸化炭素排出係数（実排出係数）の平均値」とは、ガス種別の二酸化炭素排出係数に、本市（例）が使用しているガス種別使用量で加重平均した値です。この値が低減するほど、二酸化炭素排出量の少ないガスを活用していることとなります。この実排出係数は、「温室効果ガス総排出量」の算定に用いられます。

表-2 本市（町・村・組合）の温室効果ガス排出量概況 主要目標の代替例

温室効果ガス総排出量の削減のための措置に関する主要な目標						
エネルギー消費量（単位：GJ）※8	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%
炭素集約度（単位：t-CO <sub>2</sub> /GJ）※9	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇%	〇〇〇〇	〇〇%

※8：「エネルギー消費量」とは、種類の異なるエネルギーである各種の燃料及び電気・熱の使用量をエネルギーの量を示す共通の単位（J：ジュール）に換算して合計した量です。エネルギー消費量が低減しているほど、省エネルギーが進んでいることを示します（なお、再生可能エネルギーを自ら使用したことによる削減効果も含まれています。）。

※9：「炭素集約度」とは、エネルギー消費量単位当たりの二酸化炭素排出量です。炭素集約度が低減しているほど、使用しているエネルギーの低炭素化が進んでいることを示します。再生可能エネルギーで発電された割合の高い電気の調達や、石油と比較して二酸化炭素排出量の少ない天然ガスへの切替えなどにより炭素集約度を低減できます。

## （2）令和〇〇年度の主要な事業ごとの温室効果ガスの排出量

本項では、類型Ⅰを想定した「表-3 主要事業ごとの温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）」（類型Ⅰ団体用）と、類型Ⅱ及びⅢを想定した「表-4 主要事業ごとの温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）」（類型Ⅱ（Ⅲ）団体用）」の2種類のサンプルを用意しました。

### ③ 「表-3 主要事業ごとの温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）」（類型Ⅰ団体用）

➤ 本項は、類型Ⅰの団体を想定していますが、類型Ⅱ、Ⅲの団体でも、主要事業ごとにガス種別排出量を算定している場合は、御活用ください。

- ・ 市長部局の他、一般廃棄物処理事業などの主要事業ごとに、総排出量及びガス種別排出量を記載ください。

### ④ 「表-4 主要事業ごとの温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）」（類型Ⅱ（Ⅲ）団体用）

➤ 本項は、類型Ⅱ・Ⅲの団体の活用を想定しています。

- ・ サンプルの表を参考に、貴団体において把握している事業単位で、総排出量及びガス種別排出量を記載ください。

### (3) 措置・取組の状況

1) 取組項目（エネルギー管理項目、重点目標など）ごと

#### ⑤ 「表-5 全事業に係る取組の進捗状況」

- 本項では、取組項目ごとに、当該年度の実施状況と目標値、目標値に対する達成度を記載します。

2) 事業（あるいは施設単位など）ごと

#### ⑥ 「表-6 主要事業ごとの取組及び措置の進捗状況」

- 本項では、主要事業ごとに、当該年度の実施状況と目標値、目標値に対する達成度を記載します。

### (4) 「温室効果ガス総排出量」の増減要因

#### ⑦ 1) 排出量増加の主な要因

- 本項では、排出量の増加要因について、内部要因及び外部要因の両面から検討し、主要因と考えられる事項について、記載してください。
- 内部要因については、主要事業ごとの温室効果ガスの排出量データや措置・取組の状況等をデータから読み取れる情報のほか、施設の新増設などの情報を基に御検討ください。
- 外部要因については、当該年度の気象状況のほか、調達電力の電力排出係数の変化など、推進団体ではコントロールできない要因について、排出量増加への影響を御検討ください。

#### ⑧ 2) 排出量減少の主な要因

- 本項では、排出量の減少要因について、内部要因及び外部要因の両面から検討し、主要因と考えられる事項について、記載してください。
- 内部要因については、主要事業ごとの温室効果ガスの排出量データや措置・取組の状況等をデータから読み取れる情報のほか、施設の改廃などの情報を基に御検討ください。
- 外部要因については、当該年度の気象状況のほか、調達電力の電力排出係数の変化など、推進団体ではコントロールできない要因について、排出量増加への影響を御検討ください。

## 2.3. 今後の措置・取組への反映

本項では、上記の記載内容を踏まえた上で、今後貴団体として、措置や取組をどのように見直し、温室効果ガスの排出量削減を推進していくのか、方針を記載してください。

## 2.4. 資料編

本項には、データをより分かりやすく示すために、グラフ・図などの視覚的な工夫が施されることを想定しています。巻末に一括した「資料編」を設けるか、あるいは本文中に図示を適宜織り交ぜるかについては、各団体の公表方針に沿うものとしてください。

⑨ <<参考>>「温室効果ガス総排出量」の年度推移（事業別）

- 事業別の年度別温室効果ガスの排出量を積み上げ棒グラフの形で表示したグラフで、事業別の排出量の推移や総量削減への寄与、目標に対する達成状況等を視覚的に把握できる図表を掲示します。

⑩ <<参考>>電気事業者ごとの排出係数推移

- 外部要因として、総排出量への影響度が相対的に高い電力排出係数について、その状況を表とグラフの形で掲示します。
- 「温室効果ガス総排出量」について表-1を用いて公表される場合、電気の二酸化炭素排出係数（実排出係数）の平均値と組み合わせていただくことも可能です。